

IGS 理事会報告

## 2021 第 2 回理事会報告

防衛大学校システム工学群 宮田喜壽  
 京都大学大学院地球環境学堂 勝見 武

### 1. はじめに

国際ジオシンセティックス学会 (IGS) における 2021 年第 2 回理事会が、令和 3 年 10 月 27 日～11 月 8 日、オンラインで開催された。スケジュールは以下の表に示すとおり。参加者は、各会議事務局を含め 20～30 名だった。

会議の種類	日時 (日本時間)
全体会議 (開会)	10 月 27 日 2100-2300
コミュニケーション、コーポレート、若手会員に関する各委員会報告	10 月 29 日 2100-2230
教育、発表 電子図書館、持続可能性に関する各委員会報告	11 月 2 日 2100-2230
地域活動 (アジア、アフリカ、米国、欧州) に関する委員会報告	11 月 3 日 2100-2230
技術委員会 (補強、排水、遮水、安定化) に関する報告	10 月 4 日 0600-0730
全体会議 (閉会)	11 月 8 日 2100-2300

### 2. 全体会議

報告および決定事項で主要なものは以下のとおり。

- ・ IGS の国際全体会議、地域会議は延期する。日程については国際地盤工学会議も考慮する。
- ・ ホームページの更新作業は、7 月末にはひとまず終了する見込み。
- ・ IGS として海洋プラスチック問題について検討する。
- ・ 4 つの大学講義用ビデオ (英語版) を、ホームページや You Tube チャンネルで公開開始。
- ・ アジア会議で Tatsuoka lecture、国際全体会議の補強土セッションで Bathurst lecture、遮水セッションで Rowe lecture をスタートさせる。
- ・ 2022 年に会長、副会長、理事の選挙を行う。
- ・ 次の欧州地域会議とアジア地域会議は 2025 年に開催する方向で準備を始める。

### 3. 委員会の各種活動

#### 3.1 コミュニケーション、コーポレート、若手会員に関する委員会報告

- ・ コミュニケーション委員会：ホームページ・ソーシャルメディアの運営、メールマガジンの発信を行っている。また、サステナビリティ委員会との連携し、Did-You-Know シリーズを整備している。
- ・ コーポレート委員会：コーポレート会員相互の連携、持続可能性に関する実務者アンケートをとりまとめている。

・若手会員委員会：若手技術者インタビュー、Down to earth インタビュー、地域会議における学生賞・写真コンテストの企画・運営を行っている。今後、ジョブシャドウイング（委員会メンバーが社会人に半日か1日“シャドウ：影”のように同行し、彼らがどのような仕事をしているかを観察して学ぶ取り組み）や体験学習にも活動の幅を広げる計画を進めている。

### 3.2 教育、出版 電子図書館、持続可能性に関する活動報告

・教育委員会（勝見が委員長）：発表やオープンアクセスポリシーの整備、リーフレットの翻訳、スペックガイド、用語の翻訳などを進めている。また、オンデマンド EtE（Educate to Educator：教育者への教育）教材の準備を IGS 財団の支援を受けて行っている。

・出版委員会：IGS の冠が付く発表や文章の審査およびその手順の整備を行っている。

・IGS デジタルライブラリー：ホームページにおけるデジタルライブラリーの更新や、学位論文のデータベースへのリンク集の作成を行っている。

### 3.3 地域活動（アジア、欧州、米国、アフリカ）に関する委員会報告

・4 委員会共通：地域会議の準備、教育用リーフレットの翻訳、EtE プログラム・オンライン講習会の開催を行っている。特にアジア地域委員会では、低中所得国からの会議出席者に対し、世界銀行の基準に応じた登録割引を計画している。

・新支部が北欧、スロベニア、グアテマラ、ボリビア、エクアドルで結成され、4 カ国で新支部の設立が準備中。

### 3.4 技術委員会（遮水、補強、水理、安定化）に関する報告

・遮水技術委員会：教育用リーフレット・プレゼンテーション・ビデオの作成、オンライン講習会の計画と実施を行っている。また、ジオシンセティックス機構（GSI、米国）と協力して、遮水に関するガイドライン・基準の世界的データベースの整備を行っている。

・補強技術委員会：3つの地域会議での特別セッションの準備、補強分野に大きな貢献をした研究者の名前を冠にした特別講演のルール作り、オンライン講習会の計画・実施を行っている。

・水理技術委員会：欧州会議やカナダ地盤工学会議での特別セッションやセミナーの準備、ウェビナーの計画・実施を行っている。

## 4. おわりに

COVID-19 の影響は IGS の国際活動にも強い影響を及ぼしている。次回の理事会もオンライン開催が決まった。地域会議も延期に次ぐ延期という状況である。そのような中、オンラインでの新しい学会活動が活発化している。地域と言語を超えた国際学術活動の活性化、その中における我が国のプレゼンスの強化に今後も貢献したい。